



本年7月用正靖彦会長の後任として会長に就任致しました昭和34年卒の松良修二でございます。浅学菲才の身ですが、全力を傾けて取り組んでゆこうと決意しております。何卒よろしくお願ひ申し上げます。

新会長ご挨拶

松良 修二 (昭34年卒)



大分県立竹田高等学校 関東同窓会報

第42号

発行者・会長 松良修二
編集者・委員長 田部修士
発行所・関東同窓会事務局
〒245-0016
横浜市泉区和泉町4384-2
電話 045-803-5677

http://www.geocities.jp/kantohaketa/

日本列島は地震の活動期に入ったという観測もあります。予告のない自然の脅威に如何に対峙してゆくか、という課題を抱えながら、我が国の再生を期し日々の生活の謂いを見出し行かねばなりません。しかし、そういう環境であればこそ、人と人の繋がりが、これまで以上に大切になってくるのではないかと思います。



みんなでストーム (にこやか〜)。

同窓会活動を通じて生まれた人の輪は、着実に広がっています。この対策の一環として今年はず、組織委員会が中心となり、若手学年幹事の会を開催し、会員の拡充に力を注ぎたいと考え

ます。総務委員会、企画委員会、広報委員会も、それぞれの担当分野で若い会員拡充に向け検討を行うこととしております。この活動に対する皆様のご支援をお願い申し上げます。
8月帰省の折、新築の母校校舎を見学しました。木の香りが漂う新校舎で、暑さの中、多数の生徒が補習に励む姿を拝見しました。薪能鑑賞、岡城址散策、廣瀬神社参拝なども行いました。故郷竹田の懐の深さを改めて感じた帰省でした。
関東同窓会は、母校生徒との繋がりを保つイベントの一つとして、4年前から東京修学旅行における企業研修訪問の支援を行ってまいりました。母校の現状を知るうえでもこのイベントは大切にしていきたいと思います。今年も、修学旅行企業訪問に対する支援を出来るだけ多くの会員の皆様の参加を頂き、実施したいと思っております。
毎年3月の最終日曜日に、新宿御苑で、手弁当でのお花見会を催しております。このイベントにも是非ご参加ください。
微力ではありますが、関東同窓会の発展のために誠心誠意努力する所存です。皆様のご支援とご指導を伏してお願ひ申し上げますとともに、皆様のご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

関東同窓会年表

- 第1回 (出席225名) S 62・5・30(土)13:30~16:30
会場: 日本生命日比谷ビル7F
内容: 設立総会、会則承認役員決定
第2回 (出席158名) S 63・5・28(土)13:30~16:30
会場: 日本生命日比谷ビル7F
内容: 岡城築城800年パネル展示
第3回 (出席164名) H 1・6・30(土)12:30~15:30
会場: 品川プリンス本館クラウンルーム
内容: 歌手岡みどり(竹田出身)公演、出席者にお土産「荒城の月」
第4回 (出席140名) H 2・5・19(土)14:00~16:30
会場: 品川プリンス本館クラウンルーム
第5回 (幹事S 23・24・25年卒166名) H 3・6・22(土)13:30~16:00
会場: 高輪プリンスパミール館白雲
内容: 抽選会(特賞東京・大分往復ペア航空券、1等東京・大分往復航空券、2等オレンジカード、3等テレカ、特別賞カボス苗木)
※この年より懇親会の当番幹事制開始
第6回 (幹事S 26・36年卒180名) H 4・6・20(日)11:30~15:00
会場: グランドパレス松の間
内容: 「竹田を考えるシンポジウム」(竹田4名、当会3名参加)
第7回 (幹事S 27・37年卒160名) H 5・6・19(土)12:30~15:00
会場: グランドパレス白樺の間
内容: 柳家さん好(現柳亭市馬)さんの漫談、林家二楽さんによ

## 大分県立竹田高等学校

# 関東同窓会 第25回総会・懇親会

とき 平成23年7月9日(土)

ところ ホテル グランドパレス

当番幹事 (45年卒、55年卒)

平成23年度の総会・懇親会は7月9日(土)にホテルグランドパレスにて開催された。梅雨明け宣言が出され暑い日となった(会も熱い「絆を繋ぐ」今会のスローガン)。11時半、倉本副幹事長が開会宣言、全員で校歌斉唱を行ない、物故者へ黙祷を捧げた。



感謝状贈呈

初めに用正前会長より「皆様には、会の運営に多大なご尽力をいただき誠に有難うございます。東日本大震災と原発事故で多数の方が亡くなりました。亡くなられた方のご冥福をお祈り申し上げるとともに被災者の方々に心から御見舞いを申し上げます。本年は節目の25回目を迎えた。多数のご臨席に感謝するとともに、皆様のご健勝を祈念致します。」と挨拶があった。続いて25周年に当り、その功績を讃え佐藤映之相談役に感謝状をお贈りした。続いて、松良新会長から新役員の紹介がされた。

次に、来賓として竹田高校…長田校長が挨拶された。関東同窓会による企業訪問の支援等お礼を述べられ、近況をパンフレットで紹介され「4月下旬の歓迎遠足。伝統を受け継ぐ岡城の二の丸でのストーム。男子生徒の



首藤竹田市長

40KM走。部活動では夏の甲子園予選の開会式が行われ開幕試合を当てた。(結果は竹田高校3-0別府羽室台高校)。山岳部は総体でアベック優勝しインターハイに出場。将棋等文化部も全国大会への出場が決定。

新校舎が完成、体育館も来年3月には改装予定で、生徒達が充実した環境で、文武両道を目指し頑張れる。」と述べられた。

後藤眞二同窓会長は「同窓会名簿の更新のお礼を申し上げます。皆様のご協力で出来上がりました。蠟燭を土産として準備しました。ぜひ竹楽にお帰りいただきたい。」と挨拶された。

続いて、首藤竹田市長が挨拶。「第25回の関東同窓会おめでとうございます。お招き頂き感謝申し上げます。竹田市の人口が国勢調査で22000人減った。高齢化率は、全国809市中で第一位。逆風無ければ風は高く



元気一杯の乾杯

舞い上がらないと唱え、全国屈指の魅力ある都市を目指している。

2012年で城下町は400年になる。歴史資料館に国指定の重要文化財『サンチャゴの鐘』(長崎で造られた)があるが、これも400年を迎える。

同窓会創立の年に船村徹先生が『サンチャゴの鐘』を世に出され、もう一度全国にヒットさせたいと願っている。記念事業で『サンチャゴの鐘』を響かせ先生と竹田市の夢を叶えたい。」と結ばれた。

白石哲也氏のピアノが披露され懇親会の幕を開けた。濱口鈴子様のご発声で全員乾杯。竹田の焼酎「清明」、緒方の焼酎「三郎」、久住の地ビール「くじゅうビール王」と清酒「千羽鶴」等が並んだ。

千花有黄さんのショータイム。続いてT.A.O.の太鼓で抽選



一位を見事引き当てたのは～

会が始まった。長嶋茂雄サインボール、内川選手のサイン色紙等が用意された。次年度幹事の紹介後、全員がひとつの輪になつてストームを行なった。

会場が盛り上がる中、学年幹事の三本締めにて会は閉幕。惜しむように再会を約束して会場を後にする全員に土産として地元の銘菓(25周年記念)、椎茸、竹楽の蠟燭等が手渡された。

### 募金の御礼

本年7月9日の定期総会において、東日本大震災への支援募金が2万円集まりましたので日赤を通してお送りいたします。ご協力ありがとうございました。

# 平成二十二年 新役員紹介・挨拶・会計報告

## 同窓会副会長就任

麻生 三郎 (昭35年卒)



## 副会長就任

菅 博敏 (昭40年卒)



## 幹事長就任

井手 得郎 (昭41年卒)



## その他の新役員

### 企画委員長

栗田 信子 (昭41年卒)



### 組織委員長

志賀 卓史 (昭52年卒)



卒業して50年余、以来山紫水明で数多の先達を輩出している竹田を誇りにしてきました。「竹田出身」というと即座に「あの『荒城の月』、滝廉太郎、広瀬中佐」で有名なところですね」と返ってきます。10年ほど前、大学時代の仲間を夫婦同伴で20数名、秋の岡城址に案内しました。その時の紅葉の見事さは今でも語り草になっているほどです。

この度、関東同窓会副会長を拝命することになり、非常に光栄に存するとともに、身の引き締まる思いであります。幸い我が同期の「珊瑚会」は結束が固く、そのバック・アップを得ながら関東同窓会の発展に些かでも貢献できればと願っています。よろしくお願いいたします。

7月9日に開催された関東同窓会・総会において、副会長(広報担当)を拝命することになりその責任の重さを痛感しております。二年の任期期間中、松良会長の指導の下その意図を体し、しっかりと補佐して参りたいと思います。本同窓会は組織力、活動内容等実に素晴らしく、全国に誇れるものだと思っております。歴代会長、役員、会員の皆様方の郷土に対する意識の高さ、同窓会に対する情熱と行動力に心から敬意を表します。

広報担当としては、年二回の広報誌「臥牛」の発行及びHPの維持・拡充という仕事があります。

この夏、竹田医師会病院を訪れた際、そこで働くお母さんから関東同窓会に参加した娘さんの話があった。「都会で寂しい思いをしていた時、優しくお誘い頂き大学生の娘が同窓会に参加した。二次会まで誘っていただき楽しかったと電話があった。」意外な所で同窓会の話に驚いたが、それ以上に仲間の気配りが嬉しく、こうした思いやりが会員の輪を広げると思っています。会の発展について抱負や課題

会計報告	
収支計算報告書	
(平成22年4月1日より平成23年3月31日まで)	
1. 収入	
(1) 維持費	1,626,000円
(2) 総務費	1,808,000円
(3) 総受	150,000円
(4) 雑収入	368円
前期繰越	3,584,368円
合計	2,124,495円
2. 支出	
(1) 総務費	2,111,854円
(2) 会費	743,668円
(3) 会名簿	146,082円
(4) ホームページ	56,634円
(5) 郵便費	6,300円
(6) 事務用品	25,137円
(7) 通信費	176,617円
計	3,266,292円
次期繰越	2,442,571円
合計	5,708,863円
3. 次期繰越の内訳	
(1) 現金	28,262円
(2) 預金	2,414,309円
計	2,442,571円

上記のとおり報告します。  
平成23年4月10日  
幹事長 松良 修二

監査報告書  
監査の結果、この収支計算報告書は、適正かつ正確であることを認めます。  
平成23年4月23日  
監事 坂本 勇  
監事 桃溪謙次郎

- る紙切り芸、滝廉太郎の映画公開前の予告
- 第8回(幹事S28・38年卒179名)  
H6・6・25(土)13:00~16:00  
会場:高輪プリンスパミール館香雲  
内容:岩戸神楽(朝地の深山神楽座8人)、郷土品コーナー
  - 第9回(幹事S29・39年卒198名)  
H7・7・8(土)12:00~15:00  
会場:センチュリーハイアット天平の間  
内容:ピアノ演奏(白石哲也さん)、竹田市歌(阿部恵美子さん)、竹高活動状況ビデオ上映、郷土特産コーナー、後藤是美先生歌集
  - 第10回(幹事S30・40年卒178名)  
H8・6・15(土)11:30~14:20  
会場:京王プラザホテル錦の間  
内容:抽選会(特賞京王プラザ宿泊券、一等京王プラザペアディナー券)、郷里紹介ビデオ(竹高活動状況)上映、郷土特産コーナー
  - 第11回(幹事S31・41年卒190名)  
H9・6・28(土)11:30~14:30  
会場:センチュリーハイアット天平の間  
内容:自作神楽舞、男性軍によるカンカン踊り、郷土の歌斉唱、郷土特産コーナー
  - 第12回(幹事S32・42年卒158名)  
H10・7・11(土)11:30~15:00  
会場:センチュリーハイアット天平の間  
内容:助六陣太鼓保存会による和太鼓、郷土の歌斉唱、郷土特産コーナー
  - 第13回(幹事S33・43年卒193名)  
H11・7・17(土)12:00~15:30  
会場:センチュリーハイアット天平の間  
内容:バンド演奏(エスエムシー)、懐かしの歌声、郷土特産コーナー

25周年特集

「関東同窓会25年を振り返って」

関東同窓会

設立当初の感想

第四代会長

長吉 泉(昭26年卒)



ら会長人事で、初代会長には欠席の高宮昇先輩に決まった。会は、組織や会則などの具体的な事柄を決めることなく、今後を後藤・渡辺両先輩に託して散会した。

会場を出たところで、後藤鉄石先輩から近くにある山の上ホテルでのお茶に誘われた。ホテルに向かっているのが後藤先輩のほかは渡辺正治先輩と若輩の私のみであることに気付き、悪い予感が過ぎた。山の上ホテルで両長老から命じられた仕事は、組織や規約の立案、会員名簿の作成など設立総会に向けての一連の作業であった。

関係諸氏と共に半年間の目まぐるしい奮闘の末、翌5月30日帝国ホテル隣の日比谷日生ホールで設立総会に漕ぎ着けた。大津会長、首藤校長、田北和義先生等郷里よりの来賓10名を含む235名が参加、結構盛会であった。

末筆ながら、この相談会が持たれた一年程前、同期の伊藤瑛介君が帰省の折、田北和義先生から関東同窓会の立ち上げの要請を受けていたことを記しておきたい。

夢は茫々と

前稲葉会会長

石原 田鶴子(昭14年卒)

私が同窓会と最初に出逢ったのは、確か昭和三十年頃だったと思ふ。小さかった娘の手を引き、京王電鉄に入社したばかりの弟、輯三と、親籍の西田吉勝とで八芳園の庭で会ったと靡気の記憶しかない。其の後は三宮美都子さんが会長の稲葉会にのめり込んでいった。

高宮さんが同窓会の初代会長になられた時、私にしては犬が何時もサイレンに合はせて遠吠えしてゐたみたいなお方だ位にしか知らなかった。唯「ビートルズ」を日本に呼んだ最功労者だとは聞いてゐた。

次の二代目会長・後藤鉄石さんは偶然御宅が北越谷で私の家から割に近い事もあり、又竹田

の御実家が春日屋の前で私の実家と春日屋は親籍で良く遊びに行つてゐたので、親しくして頂いた。ソフト帽に私服でステッキをつき、土手を散歩してゐたのが今でも目に浮ぶ。

会の方は長吉さんがずっと副会長をされてお世話いただいたと思ふ。渡辺五月さんがキリ、と手伝はれて、あんな有能な助手はゐないと思つたものです。長吉さんとは、緒方の踏切りの傍に御実家があり、私も五年間緒方に疎開してゐたので話が合いますぐ仲良くなりました。パークの渡辺正治さん、後藤鉄石さんは高等学校を一年飛び越して東大に這入られた由、竹田の様な田舎でもすぐれた方々が居るものだと感心した。

三代目会長になられた伊藤七五三八さん、栗生さん御兄弟、池田さん、海軍の古庄さん、懐かしい方々の中には既に亡くなられた方もおられ、自分も最近足が弱くて同窓会に出席することが叶わず淋しい事です。

工藤正造さんも忘れられない一人です。主人の父の実家(緒方下自在、吉良酒屋店の傍)の隣りで世話好き、お酒好きでちよつとの間も会の為に走り廻つてゐました。結婚されて印刷屋を開業しましたが早逝されました。

稲葉会も三宮さん、次の会長候補の志保屋の節ちゃんが相次いで亡くなり、四、五十名ゐた



前列中央が石原さん

- 第14回(幹事S34・44年卒204名) H12・7・1(土)12:00~15:00  
会場:グランドヒル市ヶ谷瑠璃の間  
内容:東京メトロポリタンアンサンブルによる弦楽四重奏(滝廉太郎、モーツァルト、映画音楽等)
- 第15回(幹事S35・45年卒244名) H13・7・14(土)12:30~15:30  
会場:センチュリーハイアット桃山の間  
内容:小林淑郎とハッピートラッドによるジャズセッションと竹田 関連曲演奏
- 第16回(幹事S36・46年卒209名) H14・7・20(土)12:00~15:00  
会場:センチュリーハイアット桃山の間  
内容:ピアノBGM演奏、ビンゴゲーム、郷土特産コーナー
- 第17回(幹事S37・47年卒213名) H15・6・21(土)12:00~15:00  
会場:椿山荘オリオンの間  
内容:江戸太神楽、のこぎり音楽、抽選会、郷土特産コーナー
- 第18回(幹事S38・48年卒205名) H16・6・12(土)12:00~15:00  
会場:センチュリーハイアット桃山の間  
内容:西みほさん(昭和55年卒)ソプラノソロ、ピアノ・バイオリンによる伴奏、インフォメーションコーナー(所属部活、出身小学校、趣味、クラス会情報等)設置
- 第19回(幹事S39・49年卒219名) H17・6・18(土)12:00~15:00  
会場:センチュリーハイアット桃山の間  
内容:柳亭市馬さん(昭和55年卒)話芸・二門の曲独楽、インフォメー

会員も次々に缺けて、最後は十四、五名となり、私が椿山荘の会を最後に幕を閉じました。その後は、自然に竹田高校の会に吸収してもらい友達何名かで出席してました。

当番幹事も一度もやらず、お客様同然でした。竹田へは毎年一人で帰郷して来たものですが88才になり昨年からは体力的にも無理になり大変淋しく思っております。

何時も年2回送っていただく会報を懐かしく読ませて頂いてゐます。益々の関東同窓会の御発展を祈り上げます。

夕暮れの土手に登りて東の空に仰ぎし後の夜の月  
野鳩の声クルル、と懐かし  
く樟の棹を仰ぎ見るなり

関東同窓会の生い立ち

第五代会長

佐藤 映之(昭28年卒)



〈竹田高校〉

母校竹田高校は明治30年の創立で、戦後、昭和23年に新学制

改革により旧竹田中学・旧竹田女学校を統合して現校名になったことはご高承の通りです。大分県下、有数の伝統校であり、凡そ三万人の卒業生を世に輩出している。同窓人は戦前・戦中・戦後と幾多の変遷を辿り極めて意気軒昂で各地で活躍され多方面にその足跡を残されている。

その中であって首都圏には約三千人位の在住者が予測されるが、残念ながら同窓会としての体を為した会がなかった。

〈在京竹田会〉

私は昭和28年の春、上京した。竹田を出てから到着まで二十数時間を要した時代、東京は戦後復興の槌音が随所に響き、新しい息吹きと戦災の後遺症が未だ混在していた。

その頃、東京には既に竹田会が存在していた。竹田出身の実業界の方や有識者の先輩方が首頭をとり、会員は竹田にご縁のある方は誰でも参加できるよう門戸を大きく開放して運営されていた。

当時、若者が上京するには親戚・縁者・先輩等の助力が必須であり宿の手当てから進学・就職の世話まで多岐に亘り手引きを蒙った。いわば竹田会の存在は若者の「受け皿」的存在でもあった。

〈関東同窓会設立〉

時は流れ経済は大きく成長し世の中は安穏な生活へと移行された。昭和の終わる頃より在京

のOBやOGより徐々に在京同窓会設立の機運が湧きつつあった。同じ頃、母校も本校同窓会のみならず各方面に設立の意図があり、首都圏にも是非との要望があり、思惑は一致した。

一年以上の準備期間をもち、昭和62年春に創立総会を目的にスタッフが編成された。先導役は高宮昇氏(初代会長・故人)、後藤鉄石氏(第二代会長・故人)、渡辺正治氏(初代副会長・故人)、石原田鶴子氏(稲葉会(女学校)会長)、伊東七五三氏(第三代会長・故人)、長吉泉氏(第四代会長)他、多士済々の役員の方々。

私は若年の部類で末席を汚した。設立に当たっては「竹田会」とは関係を蜜にしながらも一線を画し相乗効果を求めることが根底にあった。阻害条件として考えられる開催の時期については、一例として年一回の総会の時期を竹田会が秋の定番に對し同窓会は春を不文律とした。

同窓会の目的は会員相互の親睦をはかり、母校の発展を期することであり、これを長期的かつ安定的に継続運営することにその意義を求めるとは言うまでもない。

目的推進のためには先づ適格な会則のもと忠実に遂行する行動規範をつくることであった。その骨子は発起人会審議のもと次の五部門に要約した。

- ①総務委員会：会計・維持会

費の徴収及び管理。②企画委員会：中長期計画の作成、総会・懇親会の企画・立案・実行。③名簿委員会：会員名簿の作成(完成後に発展的解消)。④組織委員会：会員増強策・個人の発掘、年次幹事連携。⑤広報委員会：当初ペンディングであり、創立三年後に設立。臥牛の年二回定期発行。等々。

かくして草創期の骨格は一応整い作業は順調に推移した。予定通り昭和62年5月30日、日本生命日比谷ビルにて創立総会が225人出席のもと盛大に開催され、力強くスタートした。

創立五年目より会員の幅広い参画意識高揚を狙い総会時の懇親会部分に当番幹事制(複数学年組み合わせ)を導入。又、広報委員会にホームページの開設、更には母校との接点として器楽部の現役生徒を招聘、修学旅行の折に大学訪問・企業訪問の支援等が為され充足の一途を辿っている。

設立当時の基本構想は一部の修正はあるものの、大半が継承されて今日の発展を遂げている。これもひとえに各役員が創立の精神を踏まえご尽力されていること、そして二千有余名の会員の皆々様のご協力の賜物に尽きるところ。私は初代企画委員長として参加させて頂き四半世紀経過した今日の隆盛をみると感慨一入である。

シヨンコーナー(所属部活、出身小学校、趣味、クラス会情報等)設置、郷土特産コーナー

第20回(幹事S40・50年卒275名) H18・7・8(土)12:00~15:00  
会場：アルカディア市ヶ谷富士の間  
内容：設立20周年感謝状記念品贈呈、竹高器楽部35名による演奏、インフォメーションコーナー(所属部活、出身小学校、趣味、クラス会情報等)設置、郷土特産コーナー

第21回(幹事S41・51年卒202名) H19・6・9(土)11:30~15:30  
会場：アルカディア市ヶ谷富士の間  
内容：設立20周年感謝状記念品贈呈、越谷龍虎太鼓による和太鼓演奏、ふるさとの味「だんご汁」

第22回(幹事S42・52年卒242名) H20・6・28(土)11:30~15:30  
会場：アルカディア市ヶ谷富士の間  
内容：城原神楽、箱根駅伝出場同窓生の紹介

第23回(幹事S43・53年卒256名) H21・6・27(土)11:30~14:30  
会場：アルカディア市ヶ谷富士の間  
内容：ストリングスナカノによる演奏、郷土特産コーナー、抽選会(特賞長湯温泉宿泊券他)

第24回(幹事S44・54年卒244名) H22・7・10(土)11:30~14:30  
会場：グランドパレスダイアモンドルーム  
内容：眞正流一家による津軽三味線演奏、ふるさとの味「だんご汁」、郷土特産コーナー、じゃんけん大会

「やせうま」

25周年特集

「写真で綴る 母校の歴史と 新校舎完成」

長田 文生 校長

関東同窓会の皆様には、平素から母校の教育の振興と在校生の激励のため、特段のご支援を賜り厚くお礼申し上げます。

毎年7月に実施されます総会での皆様方の郷土愛を絆とした結束力と母校に対する熱烈なる思いに、校長として大変心強く感じています。さて、現在進められている体育館の新築工事に伴い校庭の植木が伐採され、今まで樹木に隠れていた正門近くの小さな石碑が目にとまりました。

その碑には「修道館跡」と



竹田高校・新校舎

刻印されており、裏には建立の経緯と本校の歴史が記されていました。この思いがけない小さな

な石碑がきっかけとなり、本校の歴史に関する書籍をもとに碑文の内容を確認することにしました。

江戸時代この地方を治めていた岡藩は、教育振興に大変熱心で安永5年には、豊後の国で初めてとなる藩校「由学館」を設立し、藩士の子どもたちの学芸教育を開始しました。安永5年は西暦でいうと1776年、世界史ではアメリカ合衆国の独立宣言が発せられた年にあたり、今から235年も前のことになりました。

さらに武芸教育の必要から天明6年に「経武館」を設立し、武術教育にも力を入れました。その後明治元年になり「由学館」と「経武館」が統一され「修道館」が設立されています。

そして明治30年に大分尋常中学校竹田分校の設立、昭和23年に県立竹田高校と改称されることになりました。公式には竹田高校は今年で創立114年目となりますが、「由学館」「経武館」



文武之像

「修学館」を本校の前進と考え、その教育理念の継承を一連の歴史と見なすと、本校の歴史は235年となり県下一の古さを誇ることになりました。

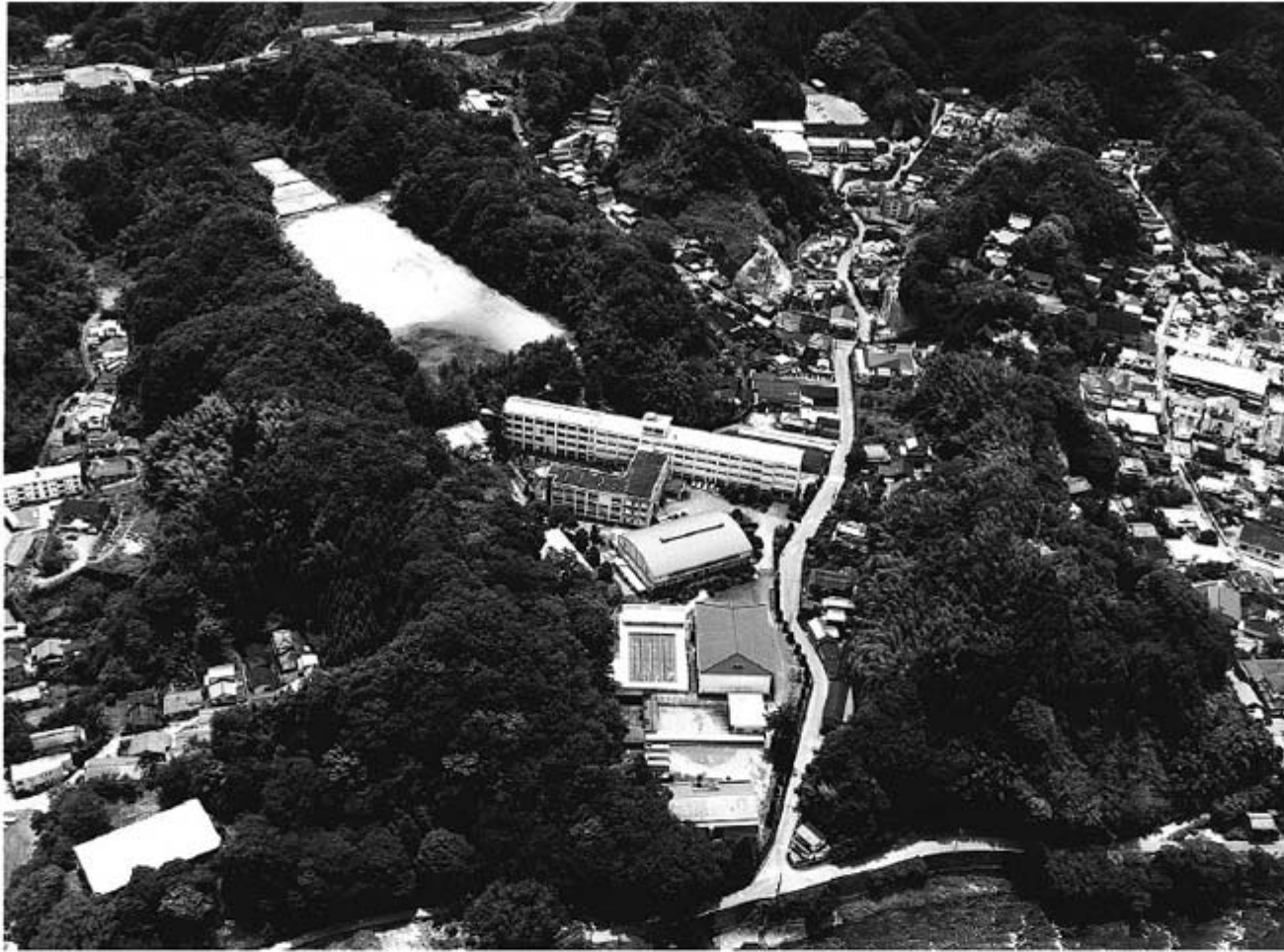
現在を生きる私たちは、岡藩の時代から教育を尊ぶ風土や土壌が、遣伝子のごとく今日まで脈々と受け継がれていることに感謝しつつ、教育を大切にすることが、次世代に受け継ぐ責務があることを自覚しなければなりません。

ところで今春完成しました教室棟は檜や杉などの県産材をふんだんに活用した温もりのある校舎となっており、教室に入る

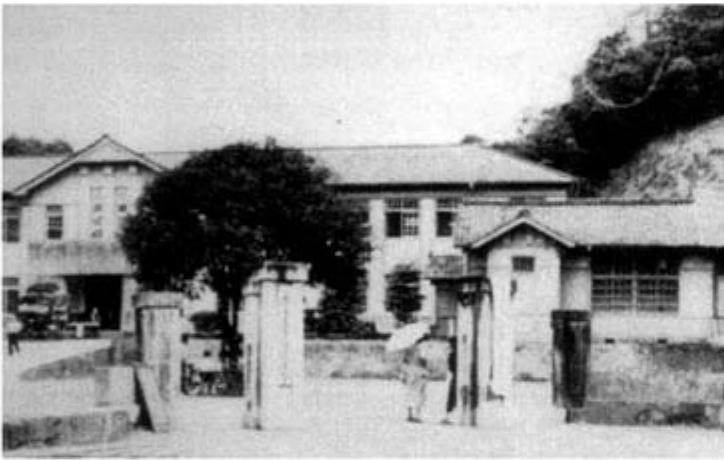
と微かな木の香りが深い心の安さを感じます。

また各階の階段に設けられたニッチには、季節の草花が職員の手により生けられ、心和む空間を提供してくれています。さらに校舎壁面には生徒たちの可能性の開花を願うかのように「夢への挑戦」という言葉も掲げられています。

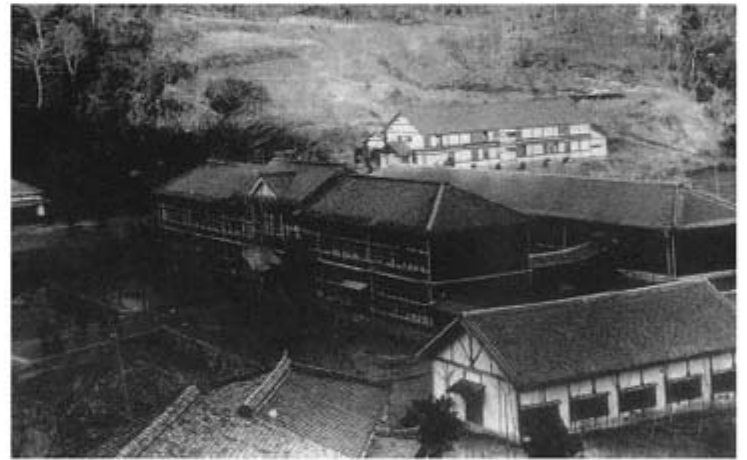
同窓生の皆様には、思い出のよすがとなる学舎が、建替えられることに一抹の寂しさもあるうかと思いますが、竹田高校の伝統や校風は将来にわたり継承し、変わることはないよう努めて参る所存です。



平成23年現在の竹田高校・航空写真



昭和23年当時 竹田高校・本部



明治32年 竹田高校・第2校舎完成時(奥は寄宿舎「報国寮」)



昭和36年当時 竹田高校・第2校舎



大正12年当時 大分県立竹田高等女学校



国の登録有形文化財に申請中の柔道場  
(昭和14年1月8日築)



昭和9年7月4日 大分県立竹田高等女学校火災

特別寄稿

竹田の先人 廣瀬武夫を偲んで  
旅順の旅

佐藤 映之(昭28年卒)

今、故郷竹田市は行政・市民が一体となって郷土の歴史・郷土が生んだ先人の足跡を掘り起して新たな街づくり・人づくり、そして心づくりを講演会・広報活動・「嘸鳴フォーラム」等多岐に渡る企画を催し積極的に推進している。

竹田市は多くの俊秀な先人を輩出しているが、私たちが敬愛する廣瀬武夫海軍中佐(1868~1904年)もその一人である。子供の頃は廣瀬中佐を称え、又国威高揚のため文部省唱歌として幅広く愛唱された「軍神廣瀬中佐」轟く砲(つつ)音飛びくる弾丸……



2011/03/20

杉野はいずれ杉野はいずやを口遊んでいた。高校生当時は廣瀬神社に登り朽ちたマストを揺さぶったりもした思い出がある。

昨年は司馬遼太郎の長編小説「坂の上の雲」がNHKでドラマ化され興味深く観賞した。日露戦争の英雄、廣瀬武夫の人となりについては多くの文献が語っている。勇敢な武人であり、勤勉、豊かな人間性、卓越した国際感覚、文筆に長けた風流人、等々眞に文武両道を極め「軍神」と敬称された人である。

竹田市がかねてよりすすめていた廣瀬武夫のプロズ像が昨年完成した。顕彰会がそれを機に事業の一環として「廣瀬中佐を偲んで旅順・大連・金州の旅」を企画され会員に呼びかけた。早速参加を申し込む。

旅の趣旨は「廣瀬武夫を偲ぶ献花」であり、当時の戦跡を尋ねることにあつた。出発予定日が近づいた頃、未曾有の東日本大震災が発生した。一時は躊躇したが予定通りの参加とした。

参加の主メンバーは当然竹田在住者で、出発当日は廣瀬神社



に参拝後、バスで福岡空港へ向かった。私は羽田より福岡へ飛び合流した。当同窓会相談役の長吉先輩ご夫妻も同行され楽しい三泊四日の旅となった。仲村团长他約二十名の陣容である。先人を偲ぶ心は共有しており又同行の方々とは知己は少なかつたが言葉交わしている内に縦・横・斜線が繋がり溶け込むのにさほどの時間は要しなかつた。

初日は夕刻の到着で小休憩のあと夕食会場へ、そこで改めて自己紹介があり更に融和した。当宿舎は旧大和ホテル(由緒ある大連賓館で格式高く日中国交回復の田中角栄・周恩来会談の場所でもある。建物の一部が記念館として管理されており、幸いにも陳列室等の見学機会を得た。

第二日目は日露戦争最大の激

戦地とされる遼東半島の先端、旅順港周辺の見学である。特に旅順港は当時露国の世界に誇る主力艦隊が強固な陣形を整えており日露戦争の勝敗を左右する戦略的拠点であつたようである。旅順港口より湾が一望できるが、海峡の地形からみて閉塞作戦を展開したことは素人にも領ける。廣瀬中佐(当時少佐)はこの作戦で戦死した。

あの湾口の入り口付近で、杉野はいずこー! 杉野はいずや!と部下を探し廻った後砲弾に倒れたことを想像するに悲嘆やるかたない。献花は現地住民の感情を損なわないようにと現地ガイドの説明を受け慎ましく弔意を表した。

二〇三高地、東鶏冠山における陸戦はこれ又激戦であり短期間に莫大な戦死者を出したようだ。北保塁と呼ばれる露軍の防御陣地、花崗岩製の遺構は百年経過した今日まで弾痕が生々しく残る。白玉山には陸海軍の大量の犠牲者の霊を弔うため乃木大将と東郷元帥が建てた「表忠塔」が聳えている。せめてもの慰めである。

戦跡を移動中、日本語達者の中国人ガイドが日露戦争を風刺して面白いことを言った。「ここは中国、ある時二組の強盗が同時に侵入、他所者同士が喧嘩を始めた。その場所がここら辺り?だと」。戦跡をあとにして

大谷コレクションの旅順博物館、旧関東軍司令部、日本橋、上野駅をモデルにした大連駅を車窓に見ながら二日目を終える。

前日は古戦場が中心であつたが三日目の訪問地はかつての行政機関や民間の施設跡となる。日清戦争の「下関条約」、日露戦争の「ポーツマス条約」で遼東半島や関東州の割譲や租借地、或いは鉄道の譲渡等で多くの日本人が渡って行った歴史的現場である。

私の叔父家族も「満鉄」勤務で渡満した。旧大連警察、旧高等法院、元関東州庁等の建物が現存し病院や役所ビルとして活用されている。又、満州鉄道(満鉄)本社ビルも威厳を見せ、当時高速で大陸を疾走した大型機関車(アジア号)もその勇姿を記念館で見せていた。金州では従軍記者として赴任した正岡子規の句碑が残っており日本人の足跡の厚みを痛感した。

最終日は朝食後大連空港へ向かい昼過ぎ福岡に到着、空港で旅の仲間と別れを告げ帰京した。好天に恵まれた四日間であつた。

このたびの旅は単に物見遊山の観光とは異なり、日本の近代史を学ぶ非常に有益な研修旅行であつた。この会を企画されたスタッフの方々、ご同行の皆様々に謝意を表しつつ、



# ふるさと名所紀行

田部 修士 (昭42年卒)

## 柴田桜・4代107年 続く贈り物

2011.2.6付け産経新聞の記事に感銘を受け、安本大阪編集委員にご了解を頂いて記事の紹介をさせて頂きます。(紙面の都合で要約してありますので詳しくは同記事をご覧ください)

竹田市「茶屋の辻」の広瀬中佐の生家跡に、昨年12月23日新たな名所が生まれました。「里山保全竹活用百人会」(井上隆理事長)が山桜50本を植え、「広瀬武夫桜の杜」として整備された。桜は別名「柴田桜」。宮崎県日南市の故柴田庄太郎さんに由来します。

明治37年、庄太郎さんは34歳。大阪から宮崎県油津町(現日南市)に移り住み5年がたっていた。尾崎紅葉門下で司葉の俳号を持ち、乃木希典と俳句のやり取りをされた人だったという。

庄太郎さんは、旅順口での中佐の死を悼み、遺族の悲しみを癒やす術(すべ)はないものか。気が付いたのが油津で満開を迎えていた桜だった。この枝をなんとか東京の広瀬家へ。当時の小包では10日前後かかった。どうやって花を保つか思案の末



桜の枝を丸大根に刺し、ボール紙で簀(す)巻きにし、その上を油紙で梱包した。

小包を受け取ったのは中佐の兄嫁・春江さん。桜を花瓶に入れると、生気を戻し残っていたつぼみも開花したという。春江さんは、花びらやつぼみも残らず拾い、水盤で浮き花にし、中佐の遺影の前に花瓶と水盤が供えられた。庄太郎さんの好意を花びら1枚さえも無にしたくない。そんな謝意が伝わる所作である。

桜の便りは、庄太郎さんが亡くなる昭和7年まで毎年3月27日、中佐の命日に届いた。それを娘のしなさんが引き継ぎ、しなさんが病没した昭和37年からはしなさんの三男・雅夫さんが、送り先を広瀬神社に変えて続けた。昨年までで107回。「1世紀を超える贈り物に竹田市民として応えたい。」広瀬武夫桜の杜整備と柴田桜の命名には、そんな思いが込められている。

柴田家の贈り物が続いているのは、春江さんが贈られる側の礼として花びらの一枚まで大切にされた心

に、庄太郎さんが感動したからにはほかならない。その思いは、柴田家に代々伝わっている。「父からは続けてほしいといわれていますが、言われなくてもそのつもりでした。100年続いているものを私の代で無くすのは悪いですから。竹田の人たちから感謝の気持ちを頂いて、ますますその気になりましたね」。植樹祭に参加した柴田雅弘さん・雅夫さんの長男(53)の言葉である。高齢の雅夫さん(82)に代わり、中学教諭はすでに4代目の自覚十分だ。

## 松本清張が 「詩城の旅びと」を執筆 したモンブラン万年筆



「このモンブラン万年筆は、松本清張先生がご愛用になつていたタイプのもの。で記念に頂いたものです。が、使うのも勿体無いので今でも大切に保存している。」と平松前知事

よりご紹介頂きました。

故松本清張先生と平松前知事との出会いは昭和56年頃と伺っています。清張先生は、若い頃にもよく福岡から大分に足を運ばれていたそうです。国東のストーンサークルや真木大堂初め大分県内の風物にも大変詳しいと平松前知事よりご紹介がありました。お二人のお付き合いは古く、そのことは皆さんもよくご存知のことですが、フランス・プロバンス地方と竹田を舞台とする小説「詩城の旅びと」が、お二人の縁から生まれたことまでは皆さんご存知ないかもしれません。小説が生まれた経緯を平松前知事より伺いましたので、ここに紹介致します。

「昭和58年頃、私の車で先生と二人大分川に沿って上流竹田市まで旅行したことがある。竹田市での講演で先生が、『私が『ゼロの焦点』で能登半島の風物を紹介し、今や能登半島が観光名所になっている。竹田での講演のご縁にこの竹田を舞台にした小説を書きたい。必ず観光客が増えます。』と云われ大喝采を受けた。

後にこの小説を基に、NHK連続ドラマ「詩城の旅びと」が放映された。緒方拳と藤純子が主演のドラマで、竹田の湧水とフランスのエピアン、竹田に残る石造水路橋とフランスの水道橋、荒城の月の岡城と南フランス・プロバンス地方の廃城レ・ポアを題材に竹田とプロバンス地方を舞台にストーリーが構成されている。清張先生は、竹田の人の約束が果たせたとご満悦であった。」

## 関東37(みな)の会の仲間を紹介します

桃溪 謙次郎(昭37年卒 代表幹事)

「ふるさとへ恩返し」、このたび紹介します私たちの仲間は、田中征三君です。

玉来の出身で、私とは南部中学校・竹田高校とも同じクラスで通した仲です。彼は幼い頃父親を亡くしたため貧しい家庭環境の中で育ち、高校、大学とも奨学金で卒業しました。大学は、九州工業大学の機械工学を卒業、東新プレス工業という厚板アルミ鋼等の製造メーカーに入社し、アルミのプレス技術を研究、アルミに関するエキスパートとして学会に名を連ねる程になりました。

東新プレス工業を退職後、祖峰企画㈱という会社を平成11年11月に設立しました。これまでの経験を生かして研究開発した厚板アルミパンチング材「メガネシート」が大ヒット、わずか12年経った現在では売上が年間8億円(末期は10億円の見込み)という企業に発展しました。インドネシア工場(2万㎡)、佐野工場(3千㎡)を稼働し、自身は5社ばかりの技術顧問も兼ねて毎日がフル回転です。

その様な中、昨年の37ゴルフ会「うもうねえ会」の時に彼

と思われまふ。

将来的にはこれを基軸に、また、ヒントにして、周辺産業の興隆を呼び起こし更なる発展も夢ではないと期待しています。

田中征三君は、「今、自分があるのはふるさとのおかげ、だからふるさとに恩返しをしたい」と心の底から、ふるさと竹田を愛しています。関東同窓会に集う皆さんも同じ思いだと思います。どうか、彼に協力をお願いします。

(祖峰企画㈱の詳細はインターネットで検索下さい。)

### ふるさと定期便

桑島 輝茂(昭42年卒)

私は昭和63年から平成18年まで関東同窓会に在籍しました。関東同窓会が益々発展し躍進続ける姿は大変素晴らしいです。ふるさと竹田にUターン以来、早いもので4年半が過ぎました。竹田に住んでみると、とても居心地良く改めて素敵なおと感を感じました。

地域に馴染みながら、賑わいと活気に溢れ更に若者が希望を持つてUターンできる環境づくりに一生涯命取り組んでいます。ふるさと活動内容や最新情報をお届けする事で、少しでも皆様に恩返しできればと考えています。

今年4月1日に運行開始しました『YOKARO BUS』

は、竹田⇔博多⇔平戸間を年会費四千円の支払いで何度乗車しても無料です。福岡の方々の誘客目的ですが、福岡へ遊びに行く竹田地区の人々にも便利な企画です。パンフレットをご覧の上、会員の増加にご協力をお願い致します。

今後、大分方言をシリーズ化して皆様にふるさとの香りをお届けします。

①ろくでんねえ…答)ろくでもない(碌)ロクは当て字らしい(例)大臣にもときには「ろくでんねえ」がおる。  
②ねなおる…答)仮眠から本格的に寝る。(二度寝)とは少し違う。

(例)テレビの前で寝てしまつた、ねなおるか。

③「わあ…答)うですよ。『わあわあ』と使うことも多い。(例)わしゃ、インターネットやら、でけんわあ

④「いいばち…答)『いい気味』などの『いい』と類似か。(例)勉強せんから点が取れん、いいばちじゃ。

⑤へらたなげえ…答)話がいたずらに長い、県南島根県でも使う  
(例)あんしの話はいつも「へらたなげえ」

⑥「わんかたん…答)われの方!あなたの家の『わんかたん』とも(例)「わんかたん」元氣なばあちゃんは100才のうち。  
『大分合同新聞より抜粋』

「平戸⇔博多間」に続いて第2ルート『竹田⇔博多間』2011年4月1日より運行開始

**大分住竹田**  
**熊本黒川温泉**  
**福岡博多**

YOKAROバスは平戸⇔博多間も1日2往復運行中!年間4,000円でどちらも乗り放題!

黒川温泉・長湯温泉・久住高原・平戸温泉にも気軽に行けますよ!

年間費4,000円で直行バス2ルート乗り放題!

毎日運行1日2往復

『竹田⇔博多間』2011年4月1日より運行開始!

YOKAROバスの更なる特典!  
●ホテル・旅館などの宿泊料金割引  
●物産品購入や飲食店の料金割引  
●観光施設入場料金割引  
●平戸⇔博多間のYOKAROバスにも乗り放題

お申し込みはYOKARO竹田事務局、またはホームページで  
http://yokaro.info http://yokaro.info/m.html

社団法人 YOKARO YOKARO竹田事務局 TEL.0974-63-0663 FAX.0974-63-0662  
お問合せ 大分県竹田市大字 2150-1 (竹田温泉花水月内) URL: http://yokaro.info Email: info@yokaro.info

維持会費の納入者の現況

●維持会費のご負担のお礼とお願い

\*関東同窓会は、維持会員の皆様のご協力に支えられて、安定的なあゆみが続けております。まことにありがとうございます。\*未済となつておられる方々には、何かと出費ご多端の折りかとも思いますが、ご協力方よろしくお願ひ申し上げます。

●平成22年度年会費納入者芳名簿

(平成22・4・15 23・3・31)「総務委員会」  
お名前もれがございましたら、同窓会事務局までご連絡下さい。  
TEL03(58332)6531 FAX03(58332)6532

『旧制高女の部』

- 昭和8卒 久保タケ
- 昭和13卒 倉田敏子
- 昭和14卒 小倉セツ
- 昭和16卒 廣瀬藤子
- 昭和22卒 加藤幸子

昭和27卒

昭和28卒

昭和29卒

『旧制中学』

- 昭和6卒 山口 立
- 昭和11卒 田部 健
- 昭和15卒 荒牧 治
- 昭和19卒 服部舜次、後藤忠士
- 昭和20後卒 那須隆澄
- 昭和20前卒 四宮 坦
- 昭和23卒 渡邊眞一、池内勇吉
- 布施泰義、近藤秋男

昭和30卒

昭和31卒

昭和32卒

昭和33卒

昭和34卒

昭和35卒

昭和36卒

昭和37卒

『高等学校』

- 昭和25卒 本田仁夫、山辺博治
- 昭和26卒 阿南惟正、安藤 哲
- 伊藤瑛介、牛島健一
- 大崎貞雄、神田 清
- 吉良欣一、後藤美代子
- 佐藤健士、里見菊雄
- 志生野温夫、高松梯子
- 長吉 泉、濱口鈴子

昭和31卒

昭和32卒

昭和33卒

昭和34卒

昭和35卒

- 西山尚子、藤井郁夫
- 堀光貞枝、丸山郁代
- 森 勝幸、盛 哲男
- 用正靖彦、吉川恵啓
- 阿南一成、井 英治
- 上田武男、甲斐正治
- 金山豊美、河野昭夫
- 工藤重徳、小林恭子
- 生野 勝、高橋房枝
- 田爪善三、中村和子
- 橋本俊一郎
- 阿南 暉、岡村光博
- 岡部由子、小代邦弘
- 黒田昌子、佐藤勝教
- 佐藤充子、生野良友
- 鈴木八千代、高山武俊
- 辻 亨、利根範子
- 藤原保範、松良邦夫
- 三浦弘子、村尾イミ子
- 山口靖之
- 加藤興史、近藤吉明
- 佐藤弘一郎、立川美知
- 土屋健児、塔尾恵美子
- 本田孝和、三浦克己
- 森河 清、山下忠男
- 麻生和子、阿南洋子
- 市村真一、菅紀代巳
- 桑山致美子、後藤大林
- 後藤光正、佐藤幸一
- 武内英則、津下渥子
- 土屋ヨシエ、根本英子
- 服部恭一、松良修二
- 水野紀代子、柳井昭子
- 山崎基雄、山本栄子
- 吉岡卓也、吉崎祥子
- 和田 剛
- 麻生三郎、伊藤佳洋子
- 大塚恵士、小代文喜
- 加治久継、川合達徳
- 兼島政治、佐藤正典

昭和36卒

昭和37卒

昭和38卒

昭和39卒

昭和40卒

昭和41卒

昭和42卒

- 津田紀子、原 孝子
- 平手 肇、嶺 順三
- 宗像鹿子、用正ツキヨ
- 大岡房子、鍵小野章
- 佐賀良子、佐々田ヤエ子
- 高橋 弘、萩原 忠
- 松本雅愛、山村伊吹
- 安藤俊和、白杵毅彦
- 大塚泰子、落合 淑
- 木内千草、岸野聡賢
- 佐藤征照、廣瀬喜征
- 古沢播也、古庄正欣
- 桃瀬謙次郎
- 阿部 稔、緒方義信
- 熊谷克直、洪賢二郎
- 添田強士、高辻紀代
- 田北則夫、中野裕子
- 古川勝俊、古庄史郎
- 安藤 紀、江藤春之輔
- 加藤弘明、堀 友朗
- 吉岡龍雄、吉田英明
- 伊藤大義、大塚好美
- 笠川ミヤ子、菅 博敏
- 首藤利幸、秦 敦彦
- 菅 眞一、田部 厚
- 羽立圭爾、藤田和宏
- 古庄幸一、堀田 大
- 池田典幸、井手得郎
- 衛藤昌平、川口和夫
- 河野精一、工藤弘明
- 栗田信子、古城涼子
- 後藤彰二、後藤猛士
- 小林邦夫、坂本美穂子
- 佐田俊一、中神章彦
- 都 文生
- 尾下佳代子、小野美香子
- 工藤健二、児玉幹生
- 後藤十四生、佐田康子
- 真田正紀、瀬川悦子
- 染井 洋、田部修士

昭和43卒

昭和44卒

昭和45卒

昭和46卒

昭和47卒

昭和48卒

昭和49卒

昭和50卒

昭和51卒

昭和52卒

昭和53卒

- 野仲伊津子、羽田野寿二郎
- 姫野純二、堀 正孝
- 山本英次
- 高野優子、西川節子
- 朝倉 幸、岩崎常子
- 甲斐あつ子、工藤三男
- 倉本正博、酒井優美子
- 下田妙子、菅 裕子
- 高橋博子、鎌谷 豊
- 本田孝一、本田壮一
- 都 俊生
- 小代基昭、川口弘展
- 富田一彦
- 因 幸子、工藤美智子
- 橋爪潤一郎、日高慶記
- 古庄美鳥、保坂斎子
- 本田 徹
- 小川愛子、工藤博臣
- 小池健治、後藤和典
- 佐保克彦、田中玲子
- 藤井泰規
- 戸次幸二、本田美保子
- 水本忠士
- 首藤英利
- 上野聖展、岡本友枝
- 後藤 修、仲井弘子
- 橋爪裕二
- 飯田良典、板井 健
- 小出裕子、佐藤史紀
- 鈴木敬子、中野秀子
- 長浜和子、山道双葉
- 後藤祐治、駒形八寿子
- 滋賀卓史、内藤賢一
- 首藤亮治、土元望志子
- 富澤裕子、山部光男
- 山口満子、柳亭市馬
- 佐藤哲郎、武内宏文
- 白坂重紀

図書紹介

田部 修士(昭42年卒)

「沈み橋を渡る」

吉良幸生氏(昭29年卒、玉来出身)  
著、平成23年5月初版発行

竹田を舞台に西南戦争を題材とする時代小説。昔ながらの地名と竹田の方言が全編に織り込まれて登場人物の息吹が身近に感じられる。北村清士先生の資料「西南戦争血涙史」や吉良さんの恩師、故津嶋先生のお話などを基に、竹田の士族が何故に劣勢であった薩摩軍に加担し、どのような運命を辿ったのか、苦悩する報国隊の光世を描く。津嶋先生は当初版が発行された5月22日に逝去されました。

「がきばりや当面は敵の竹田進行を防ぐんがでくる。」…二人は腰を上げて…」

「シリーズ落物語・岡藩」



町は大繁  
よき町にして  
諸名自由の  
地なり。

村は、民家が立ち並ぶ…」

本年2月8日に初版発行を見ずに逝去されました。市役所文化財課の佐伯治さんが最終校正のお手伝いをされました。

工事を施し、埋め立て、林や藪を切り開いて東西5条、南北4条に区切り…。造成が出来上がると玉来地区から53軒、十川や狭田地区からも町家に移した。ちなみに志賀氏支配の天正期の玉来は170戸の商家、民家が立ち並ぶ…」

沈み橋を渡る

吉良幸生

西郷の影を辿りかけた男たち



必ず隘道を通らねばならず古来蓮根町(当時村?)と呼ばれた。村は、稲葉川が運び込む泥土がよどみ、堆積したムタ・すなわち耕作不能の湿地帯であった。奉行に任せられた丸山藤左衛門は排水

故村上貞徳氏・著 平成23年3月初版発行(故村上貞徳氏 S26年H23年、長湯出身)

同著68ページより「秀成が入封するまでの城下町は岡城の東側、狭田、十川にあった。その両地区は地形的な制約を受け発展が望めない判断し反対側、西側の竹田村に城下町を設けるよう決定した。…村に入るには

訃報

慎んでお知らせ申し上げます。心から冥福をお祈り致します。

物故者御芳名

- 後藤 忠士 様(昭19年卒) 平成23年3月 没
- 三宮 静子 様(昭8年卒) 平成23年4月 没
- 足立 五郎 様(昭20年卒) 平成23年5月 没
- 染井 洋 様(昭42年卒) 平成23年5月 没
- 佐田 静 様(昭30年卒) 平成23年5月 没
- 野本 吉之助 様(昭25年卒) 平成23年7月 没

※事務局へ連絡を頂いた方々を掲載させて頂きました。

2012年関東同窓会 総会・懇親会

6月16日(土)  
AM 11時30分受付開始 12:00 ~ 15:30  
東京プリンスホテル

白水ダム

「白水ダム」は「日本一美しいダム」として平成11年に国の重要文化財に指定されている。公益財団法人日本デザイン振興会(東京都港区)は、10月3日に「2011年度グッドデザイン賞」の受賞結果を発表した。「白水ダム周辺整備計画」がグッドデザイン賞を受賞しました。

日本屈指の面積を誇る竹田の棚田は、城下町を支え、急峻な地形の中で面々と稲作が続けられてきた。その営みを支えるのは、尾根や谷に張り巡らされた井路(水路)や堰、水路橋といった水利施設群である。白水ダムは、造形美・流水美に魅了され、訪問者が跡を絶たない。公共駐車場とトイレは、ダム周辺整備計画の一環として、農村文化を伝え、育む場所として整備された。

「多くの風景は建築が破壊しているが、細部まで気配りがされ、このように風景を律する建築はこれから数多く出現してほしい。」と高い評価を得た。

花見の会

3月25日 正午より  
集合場所 新宿御苑 新宿側入口  
問合せ 井手幹事長  
090-17015-11634

編集後記

産経新聞の安本編集委員は2004年の広瀬武夫百年忌祭の頃から度々竹田を訪れ、よく記事にされています。柴田様もその一つです。今年の竹田会では前に紹介した竹田城があり、稲葉川もある。そこで育った安本さんが、広瀬中佐の縁で岡城に興味を持たれ竹田の記事にされている。不思議な縁と云われてきましたが、まさに人と場所となんとも不思議な縁を感じています。

連絡先

〒103-0027 東京都中央区日本橋1-15-1  
日本パーカライジング  
(広報委員長) 田部 修士 宛  
TEL 03-3278-4350  
FAX 03-3278-4314